



佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 鮎川 慶一

会員各位

例年に比べ寒かった冬も終わり、春の訪れを感じる時期になりました。季節の変わり目ですが、体調管理をしっかりとこない年度末業務に備えたいものです。

今回で佐事研だより今年度最終号になります。今年度は義務制学校と県立学校との仕事の違いなどについて主に掲載してきました。県立学校での仕事について参考になったものも多かったのではないのでしょうか。今回は 2 名の方に県立学校での仕事について紹介していただいております。また、フリーテーマで「天孫降臨伝説の地を訪れて」を掲載いたします。



県立学校での仕事を経験して……

現在、佐賀市に在住の方で今も高校に勤めておられる事務職員の方に仕事での感想をお願いしましたので、そのレポートを紹介したいと思います……

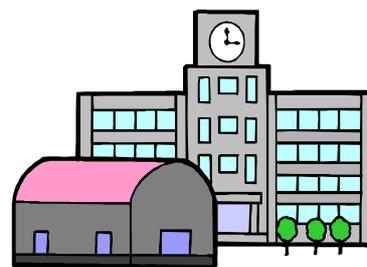
私は、平成 21 年度より県立高校へ勤務していますが、実は県立高校への勤務は今回で 2 回目になります。特に印象深かった 1 回目の高校勤務のころの感想を紹介したいと思います。

1 回目の県立高校では 2 年間の研修でした。小学校から異動になった私にとって、仕事のやり方をはじめ学校や職員の雰囲気も違うし、何もかもすべてにおいてカルチャーショックを受けたことを思い出します。「これから数年間もいなきゃいけないなんて……やっていけるかしら」と、とにかく不安いっぱいでした。

学校の敷地、教室の数、運動場の広さ、職員数の多さ……などなど、小学校に比べ物にならないほどすべてにおいて大きく圧倒されました。最初は何の教室がどこにあるのか、迷路みたいで、位置を把握するのに一苦労しましたし、職員の名前と顔を覚えるのに相当時間がかかりました……。

もちろん、仕事のやり方も義務制とはぜんぜん違います。義務制は給与、旅費、予算、ちょっとした修理、雑用などなど幅広く……一人で何でもこなしますよね。しかし、県立学校は分担して仕事を行います。県立の事務室は、学校の規模にもよるのですが、少なくとも数人いますので、市役所や県庁の〇〇課みたいなイメージですかね……。

スタッフは事務長ほか6人の事務職員と2名の用務員の総勢9人で事務部の仕事を分担して行っていました。仕事は主として、施設管理・工事関係、歳出、図書事務、歳入・授業料及び校納金関係、旅費、給与・庶務・サービス、文書受付、営繕・銀行用務関係で分担していました。仕事の分担については、おおまかに他の県立高校でもあてはまるように思います。それに生徒会や後援会、部活動費などなどお金にかかる私費会計すべて事務室で持ちます。



ちなみに、ここでの私の仕事は、歳出及び図書館業務、生徒会費等を担当していました。歳出は支払いまで学校で行いますので、計算のミスなどは許されません。また決算時期にはかなり神経を使っていたことを思い出します。

決裁権は事務長、校長にあり、すべての書類について、起案し決裁をもらわなければいけません。それに起案するときは、その根拠となるもの（積算資料等）を添付しなければいけません。恥ずかしいですが、義務制で起案し回覧する・決裁を受けるという行為をやったことがなかった私にとって、かなり大変な作業でした。回覧して決裁をもらうのに日数がかかりますので、特に締切りがある書類については、余裕をもって作成する必要があります。

回覧の途中で、付箋がたくさんついて戻ってくるということも・・・そういう時は再度作り直さないといけません。「よし！これでOK」と決裁をもらえるまで・・・。

もちろん分担制ですので、それぞれの仕事について、みんなが網羅しているわけでもないので、実際自分の机の上の仕事以外はわからないという面もありますが、ほかの方の起案書類を見ることによって、勉強させられることも多々あります。

また、一番いいなあと思うのが、義務制は同じ学校に同じ立場の人は、多くて2名、ほとんどの学校が一人配置ですよ。県立高校は数名いますので、自分ひとりで解決できない問題や課題でも周りの事務職員に相談にのってもらったり、教えてもらったり、アドバイスをもらったりできますので、とても心強いです。

私は、2校とも事務長さんをはじめ、事務室のメンバーに恵まれて、楽しく仕事ことができましたね。（今どきの高校生の生徒とふれあえるのもいいですよ。ひそかにイケメンの兄ちゃんをチェックしたり（苦笑）、楽しいです。）

現在の高校では、給与・庶務・サービス・人事関係、旅費、部活動費などを担当しています。特に手当については学校で認定事務をしますので、認定要領等を確認しながらやっています。また部活動が盛んな学校なので、特業手当や部活動振興費の事務について大変で、苦勞しています。諸先輩に助けられながら、何とかやっています。

最初はとまどうことも多いと思いますが、勉強になることがたくさんあります。ぜひぜひ機会があれば、特に若い事務職員の皆さんは、一度は高校勤務を経験してみることをお勧めしますよ。



県立学校での仕事について

3校の県立学校で勤務し、その後、義務制の学校で3校勤務されている事務職員の方に県立学校と義務制の学校との仕事の違いなどについて質問しました。



Q. 義務制との仕事の違いは？（仕事の進め方、分担など）

A. 県立では事務長も含め複数の事務職員がいるので仕事の役割がはっきりしている。歳入、歳出、施設、給与・手当・旅費等それぞれが異なる事務をしている。また、担当者が起案したものは 担当者→係→事務主任→事務長→校長と決裁を受ける稟議制の形式をとっている。毎年、受けている県の定期監査については監査委員より指導をうけないよう、かなり神経をつかっている。監査前の監査調書作成や点検での準備は怠りないよう時間をかけている。

Q. 学校や先生・生徒、事務室の雰囲気はどうでしたか？（義務制との違いなど）

A. 県立では一般の教員と一言も話さなかったという日があっても不思議ではない。県立では事務長は別として校長と話す機会は義務制程、頻繁にない。校内の教員との飲み会と別に事務室での飲み会もある。運動会や入学式・卒業式等の行事に事務長を除いて参加することもないので生徒と交わす言葉は少ない。

Q. ご自身が担当した仕事の中で、苦労したり、達成感を得たのはどのようなことでしたか？

A. 県立では授業料を担当すると未納者への督促を保護者へするときに対応で精神的に苦労する。私の場合は施設で高額な工事・修理や高額な備品を県に要求し予算がついた場合に達成感があった。

Q. これから人事交流を希望する方等にアドバイスやメッセージをお願いします。

A. 最初は畑違いの場所にきたようで、戸惑いの日々が続くことと思いますが、いろいろなことを経験することで自身の成長の糧となることは間違いありません。個人的には一度は経験しても良いかと思います。そして自分の肌にあえば交流に終わらずにそのまま異動してもいいのです。



天孫降臨伝説の地を訪れて～高千穂峰と霧島六社の紹介

～神代の昔、世界がまだ形をなしていなかった頃の話、古事記によれば、天照大神の命を受け、孫神ニニギノミコトが三種の神器を手に、多くの神と、道案内の猿田彦命と共に、地上に降り立った～

これが天孫降臨伝説です。天孫降臨の地がどこにあったかは、諸説があり、高千穂峰もその一つです。最近ではNHKのドラマで、頂上にある逆錐を坂本龍馬が引き抜いてみたエピソードが有名になりました。高千穂峰の登山は観光コースになり、シーズンには下の高千穂河原では車が駐車できないくらい多くの登山者が訪れます。一応観光客向けに登山道はある程度整備されていますが、余りにも軽装で行くと結構疲れます。自分が登ってきた道を上から見渡すと、まるで山の尾根の形が「馬の背」と言われるくらいよく似ていました。

この高千穂峰を囲むようにあるのが、霧島神宮、東霧島神社、狭野神社、霧島東神社、霧島岑神社で、総称して「霧島六社権現」と言うそうです。神社を五つしか挙げていないのは、明治6年に夷守（ひなもり）神社が霧島岑神社と合祀されて五つになりました。この中では霧島神宮が規模、社殿とも一番大きく、今では観光地になって特に休日になると多くの参拝客で賑わいます。この社殿は1715年、薩摩藩主島津吉貴によって建立されました。本殿は一度中を拝観したことがあるのですが、朱塗りの外観や内部の柱、長押、床板などは漆が塗られ、本殿に入る登廊下まで来ると豪華さと荘厳さに外部とは違った別空間にいるような気がします。この霧島神宮は、初め高千穂峰と火山口の間にありましたが、当時の社殿は火山の噴火により、1400年くらい前に焼失しました。その後「古宮址（ふるみやあと）」と言われる高千穂峰の中腹に移転したのですが、ここも約1000年くらい前に焼失し、現在の場所に移ることになりました。この他、霧島連山を囲むように霧島東神社や狭野神社があるのですが、霧島東神社には神殿の柱に右に雄龍、左に雌龍が施され、雌龍が持つ宝珠は龍神のご神託が具現化したものだそうです。島津氏は関ヶ原の合戦前にこの宝珠にさすって力を分け与えてもらったという伝説があります。この神社から見渡せる火山湖「御池」があり、この境内からも高千穂峰に登頂できる登山道のルートがあるのですが、片道3時間以上かかり、高千穂河原からのルートに比べてもさらにハードになります。そして狭野神社ですが、ここは参道に並ぶ大きな「狭野杉」が有名です。鳥居から境内にまで続いている巨木で昼間でも暗く、訪れた人を崇高冷厳な世界へと導いてくれそうです。東（つま）霧島神社は小林市、霧島岑神社は高原町にあり六社権現のなかでも離れたところにあるのですが、共通しているのは霧島神宮以外はひっそりとしていて、昨今の観光ブームにあっても古くからの造りがそのまま残っているような感じでした。私は高千穂峰の登山でのハイキングや観光ついででしか訪れたことがないのですが、歴史探訪目的で巡ってみるのもまた面白いと思います。

◎ 編集後記 ◎

今年度の佐事研だよりはいかがだったでしょうか。来年度も会員のみなさまへ様々な情報を提供できればと思います。取り上げてほしいテーマなどありましたら、各地区の調査広報部員へ連絡ください。 担当 武雄・杵島地区 調査広報部員

アクセス！ (<http://www.saga-ed.jp/workshop/sajiken/>)